

平成21年12月

[配布先：全組合員]

## 市場情報

「日時」 平成21年12月11日（木） AM10:30～

「場所」 メタルワン名古屋支社会議室

「出席」 酒匂委員長他17名(最終頁参照)

「経過」

### I. 委員長挨拶

市場委員長 酒匂 雅信

#### 厳寒期はこれから

組合員各社の皆さんは、氣勢が上がらない、不愉快な毎日を過ごしていると思うが、悪い自慢話ばかりしていても仕方がないので体に気をつけるしかない。切板の需要環境は昨年末に激変して約1年がたつが、明るいものは何一つなくなってしまった。今の鉄と生コンの状態はよく似ている。生コン市況は地域間格差があり、首都圏に比べ地方が非常に悪く、とくに九州の市況は東京の半値まで下落したと報じられている。補正予算の一部執行停止の影響によって、需要が一段と落ち込み、例年なら年度末にかけ受注が増えてくる時期だが、今年は先が全く見えないという。当業界においても今不況の寒さはこれからが本番。我々組合員は何としてでもこの厳寒期を乗り越えなければならない。『信頼と共生』の組合精神に立ち返り、皆一丸となり頑張らしましょう。

(京浜産業社長)

### II. 各地区の需要動向報告

#### 北海道

#### 橋梁は増えたが、鉄骨は半減

札幌周辺のスキー場が一斉にオープン、スキーヤーにとっては待ちに待った楽しい季節を迎えた。観光立国北海道、東洋のサン・モリッツといわれる素晴らしい雪でスキーを満喫し、

温泉・保養施設も完備、新鮮で美味しい食事、国内外からの大勢のお客さまをお待ちしています。

地域経済は、政府の景気対策に支えられ一部の業種に持ち直しの動きが見られるものの、道内の需要構造は官公需頼み。公共投資に厳しい新政権の誕生で補正予算の執行凍結により、来年度も「コンクリートから人へ」政権公約に盛り込んだ目玉政策の財源確保のため、景気刺激に即効性が期待される公共事業などが削減され、不況で疲弊した建設業界に致命的な痛撃を与える「マニフェスト不況」に陥るのではと危惧されている。一方、民間需要も景気後退により低迷し、住宅投資や設備投資は大幅な減少が続く建築需要は統計史上最低値になるのではと懸念されている。さらに雇用・所得環境も厳しく、中小製造業にとっては苦戦が続いている。

**【鉄 骨】** 道内の需要は、Hグレードを中心とした大手ファブも大型プロジェクトが一段落、手持ち工事量は0.5～3ヶ月とバラツキがある。先行き、中・大型物件は端境期で需要回復は見込めず、量的枯渇感が一層顕著になり深刻さが増すものと憂慮されている。

M・Rグレードおよび地方ファブは、食料増産体制にむけての農業関連施設や耐震補強関連物件、民間の小型物件はあるが、地域によって手持ち工事量に格差があり0.5～2ヶ月で、新規案件は殆ど無く多くのファブは年明け以降仕事が少ない状況である。鉄骨価格はゼネコン同士の過当競争による低落札の煽りで指値が厳しい状態が続く、採算割れ、あるいはそれに近いケースが見受けられる。

また、建築統計から推計される道内鉄骨需要は平成21年1月～9月の累計8万8400トンで前年同期実績の15万9700トンに対し44.6%減。鉄骨の先行きを示す平成21年1月～10月累計共同積算数量も7万6709トンと前年同期実績の15万9247トンに比べ51.8%減となり、統計史上最低値となった。

**【橋 梁】** 平成21年度は、ゼロ国・補正予算に続き、景気浮揚に向けて公共投資の大幅増で、2万5500トン、前年度比30%増の見込みで順調に発注されていた。しかし、公共投資に厳しい新政権の誕生で補正予算の執行凍結により2万2804トンで前年度比16%の増にとどまった。また、橋梁の延命・耐震対策の補修補強材としての落橋防止装置および鋼製床版工事も、公共投資の凍結の影響が心配されたがほぼ予定通り発注されている。橋梁ファブによっては稼動にバラツキはあるものの、比較的安定操業が続いている。

**【切板の状況】** 年初から続いた大型プロジェクトも一部を残してほぼ一段落。民間の中小物件や食料増産体制、景気対策としての農業関連施設や耐震補強関連案件、橋梁は発注されたが、大型案件の端境期入りで全体をカバーするには程遠い。期待された秋需も見事に不

発に終わり、本来最盛期となる夏場から低操業を余儀なくされ、建設関連は今年度中の需要回復は見込めないことから、量的な枯渇感が顕著になり深刻度は一層増すものと憂慮されている。

切板価格は、ゼネコン同士の過当競争による鉄骨価格の値下がりを受け、ファブからの指値は一層厳しさを増している。値引き合戦をしても大幅な受注量には繋がらないが、本州切板（厚板母材価格および切板価格の値差を指摘、材料支給のケースもある）電炉材・高炉材切板価格と情報が錯綜。需要不振に加え切板受注価格の採算ラインを下回る大幅下落は、この先さらに状況の悪化が予想されるだけにより深刻な事態である。

道内の需要構造は建築・土木が中心であり、建設業界は長期にわたる公共投資の抑制と過当競争で疲弊している。今後、与信問題は一層深刻さを増し、また、需要減から仕入れ抑制にも係わらず、需給バランスを示す在庫率は殆ど改善しないことから、早急な在庫調整に迫られている。

(玉造・西村卓也)

## 東 北

### 政権交代後、仕事ぱったり

東北地方は冬本番を迎えつつあります。仙台ではまだ積雪はありませんが朝夕は冷え込んでおり、スタッドレスタイヤへの交換で、冬への準備が始まっています。

東北地方の状況は、大きな変化は無く、依然として仕事量は低迷しております。地場物件は殆んど無く、首都圏物件中心のHグレード以上のファブも来年1月以降の山積みが少なくなってきたり、今後の操業に不安を抱えています。当然、シヤアの操業も半分以下に落ち込んだままの状況で、夏場頃新規物件の話がちらほら出始めていましたが、政権交代以後ぱったりと止まった状態が続いています。

先が見えてこない状況がいつまで続くのか今後の不安が増大しています。この厳しい状況の中、いつのタイミングで廃業しようかと真剣に考えている同業者も出始めています。

仙台地区ではセントラル自動車の来年11月の本格稼動に向け準備が進んでおり、先日工場建屋の竣工が伝えられました。これにより関連企業の進出が加速され、地場に刺激を与えてもらい、一日も早い回復を願うばかりです。

(J F E 鋼材・庄子悟)

## 東京

### 建産機、一部機種に復調の兆し

全体感としては、

- ① 中国を主とするアジア新興国向け輸出の恩恵を受け、需要家の在庫調整が進み増産に転じたシヤー
- ② 輸出不振や国内設備投資の見送りの影響で未だ復調が見込めないシヤー
- ③ 前回の報告時よりさらに悪化している店売りシヤーと、

歪な状態がここ数カ月続いており、各社の生産量もピーク時比、30～70%とまだら模様となっている。

先行き不透明感の下、需要家は工場再編や部品購入の輸入品への切替えだけでなく、製作の海外シフト等々、我々にとって難題続出が懸念される。

建設機械の10月出荷は前年比△50.4%で13カ月連続の落込み。一部機種を除き短期的回復の見込みは無く低迷は来年以降も続きそう。

- ・油圧ショベルは前年比△54%と最悪期は脱出した模様。結果、工場及び販社在庫に調整の目途がつき、実販レベルでの生産に回復した優等生の部類と言える。
- ・建設用クレーンは、公共事業や建築不振の影響をまともに受け販売不振が長期化しそう。今年度は過去最低の'02年の販売台数を下回る見込み。
- ・鉱山機械としてのダンプは、東南ア向けで一部の機種に復調の気配があるものの、都市型ダンプは全くの低迷状態。資源の高騰・需要増の兆候があるが、鉱山開発が再び活況を呈することを期待。

板金・鍛圧機械は企業の設備投資の長期停滞（10Q連続のマイナス）から製品在庫に顕著な減少は見られない。特に鍛圧（プレス）は深刻な状況で今年の2月から受注がゼロのシヤーもある。

重電は、総じて堅調を持続している部門である。しかしながら急激な世界的電力需要減や資金不足の影響で、来年から仕事量は減少見込み。長期的には新興国の電力需要、米国を主とする世界的な原発需要等で‘13年以降は長期にわたる繁忙を期待。

製鉄向けモーターは‘10年3～4月頃まで受注残はあるがその後は案件急減。

産機店売り部門は前回の報告時点よりさらに悪化。8月以降は乱売合戦が続き、採算割れの受注も常態化の様相。直需取引は価格面での交渉機会があるが、仲間取引は引合いそのものも激減、「その日暮らし」状態が続いている。

(ニューエイジ・池田啓志)

## 東 京

### 橋梁・鉄骨、12月以降急減へ

#### 1. 橋梁分野

##### 【全国動向】

H21FYの全国入札量は、当初30万トンレベルとみられたが、補正予算が遅れていることから、25万トン程度に減少する見込み。また当初予算の80%を上期中に発注するとの方針から、上期に来年度案件も含め、かなり強引に入札がなされた模様で、下期加工分が思いの外少なく、加えて下期入札量も減少することから、各ファブの今年度下期加工量は低レベルにとどまる見込み。

更に、来年度についても道路予算大幅縮減の政府方針から、入札量は大幅に減少する見込みであり、大方の見方は20万トンもしくはそれ以下。

##### 【関東の動向】

関東の主要ファブの動向も同様に、下期の加工量は各社とも不足しており、我々の切断量も12月以降大幅減少見込み。また、注目の首都高/根岸線(5千トン×3橋)は、関東ファブの落札は1橋のみであり、来年度入札見込量を考えると、4月以降もしばらく低レベルが続く見込み。

#### 2. 鉄骨分野

##### 【関東ファブ動向】

Sファブ：予定されていた超高層ビル案件に中止延期等はないものの、足もとの鋼材の値下がりや、鉄骨単価の急落から、GCによる再見積が行われている模様で、加工予定が大幅にずれ込んでいる。従って、これまで好調であった一部のファブの仕事量も、12月以降急激に減少し、順調に行っても次の加工のピークは4月以降となる模様。加えて、昨今の円高から、海外ファブ起用の動きも活発化することが予想され、今後の我々の仕事量はかなり厳しくなる可能性大。

HM ファブ:大手で仕事は2~3月頃までであるものの、稼働率は50~60%がせいぜい。中小に至っては、ぼつぼつしか仕事がなく、与信不安が蔓延。一部に規模縮小の動きも出始めている。

### 3. 全体動向

足元までの仕事量は、上期の橋梁のずれ込みや、一部鉄骨ファブの好調に支えられ、ある程度稼働を維持できたものの、橋梁・鉄骨とも12月以降急減する見込みであり、しばらくは回復が難しいと思われる。在庫量も今年5月をピークに30%近い削減を行ったものの、出荷量の減少により、在庫率的にはまだ過剰な状況。

(JFE 鋼材・井沢純司)

## 東 京

### 在庫2.5カ月以上は不良債権

浦安地区のシャアの現状は、厳しさがつのるばかりだ。一般シャアの稼働率は30~50%程度。在庫については、徐々に減少しているが、仕事量が少ない中で在庫はなかなか減らない。2.5か月分以上の在庫については、銀行から不良債権とみられる惧れがあるので、この点を留意する必要がある。荷動きはほとんどなく、トラック台数も通常の3/1以下に減っている。量は減り、市況はジリ安、与信問題も大きな懸念材料で、八方ふさがりの状況。

(三ノ橋鋼材・角田善彦)

## 東 京

### 心配通りに悪化

中小シャアの状況は、3か月ほど前に心配していた通り事態が悪化している。思ったほど在庫は減少せず、「1~3月在庫調整完了」のシナリオは完全に狂ってしまった。いずれ在庫の歯抜けサイズが増え、その分の手当てをする時期が来るが、売上が激減中での仕入れは資金的にも非常に苦しい。この販売不振がいつまで続くかわからないだけに余計暗澹たる思いが強くなる。

(丸東興業・秦弘志)

## 東 海

### 建産機、ピーク比2～3割レベルに

今年一年は非常に厳しい年でした。薄板業界などは自動車の生産が回復してきた影響で、忙しくなっている会社もありますが、中部地区の産機系店売・ヒモ付シャーには、まだまだ先の見えない状況が続いています。

12月という事もあり、今年一年の中部地区の産機系シャーの動向を振り返ってみると、去年秋のリーマン・ショック以後の経済萎縮によって、経験した事のないスピードで仕事量が激減しました。産機系シャーはパニック状態になり、仕入値が高く、量の多い在庫を減らす事に必死になり、在庫単価に見合わない値下げをしてきたため、各社とも大幅な赤字を出してきました。

それでも秋には少しでも景気が回復する事を信じて、又、メーカーも母材単価の調整をしてくれることを信じて、仕入を止めて在庫調整をしてきました。しかし仕事は夏までは一向に出てこず、各社とも5割以下の操業で、雇用調整金を貰い、仕入を止め、借入をする事により、なんとか流動資金の確保をしてきました。10月の終りから店売シャーは市中の仕事が拾えるようになり、又自動車の設備関係の見積りも出てくるようになりました。少し回復しかけたように見えたが、政権交代の影響が出始め、各事業の凍結などがあり、11月の後半から再び仕事が少なくなってきました。

一方ヒモ付シャーは、取引しているユーザーによって多少の違いはありますが、総じて仕事が少なく、工作機械メーカーは、まだ製品在庫を抱え、その仕様変更などの切板は出るが、本体の受注はピーク時の2～3割と少ない。

建機は、今年はピーク時の2割で、来年は5割アップが見込まれますが、ピーク時の3割程度にとどまり、とても回復という状態ではありません。

また、昇降機はピーク時の5割で、比較的良かったのですが、来年は物件が少なく、厚板使用はピーク時の2～3割になると思われます。

鉄道車両だけはまだ仕事があり、ピーク時の9割の仕事量を確保しています。

師走に入り、多くの店売業者はこれまで仕入を止めていたため、在庫調整は進んでいますが、使う材料と使われない材料がはっきり分かれ、滞留在庫もある一方、歯抜け材も出てきた。このため、メーカーに対し申し込みを始めましたが、仕事が少なく、仕事を取りに入ると、母材在庫したときの母材単価と切断単価が合わず、利益を確保するにはいたりません。

昨年は各社とも多くの利益を計上してきましたが、今年は仕事がないために、仕事をしていても利益を計上できないでいます。もう各業者単体では仕事を確保することも出来ず、国によ

る政策を期待するしかありません。来年もこの様な状況が続けば、会社自体の存続に関わる事になりかねません。

(鈴木鋼材・鈴木康司)

## 大 阪

### 不況型倒産件数、過去最大

#### 1. 全般

(1) 9月以降も落込んでいたが、ここにきて各分野とも更に落込んでおり、未だに先行き不透明感が漂い、二番底を突き抜けて、来年は三番底との声も聞かれるほど需要は減退している。

(2) 民主党政権になってから、公共投資の見直しなどが行われ、新規物件に乏しく引き合いも低調。

(3) コイルセンターはGW明けに在庫調整を終了し、値上げを小幅ながら二度も行ったが、やはりここにきて低迷しており、安値が散見してきた。

(4) 厚板の在庫は4月をピークに減少しているが、販売量の減少に伴い、在庫率で見ると10月は上昇し、4月に近づいてきている。

<4月…13.7万t(245.1%)、10月…10.8万t(242.7%)、  
ムキ材が一時減少したものの7月より上昇>

(5) 価格については、東鉄が2か月連続で下げたものの、需要が少ないだけにあまり影響はないようである。

東鉄は下げても明細はそれほど集まってない。また12mm以下は熱延材に引きずられ、下がっている。

(6) 企業倒産は、11月は大型倒産があり、金額は増えているが、件数は減少している。しかしながら、需要の低迷により、不況型の倒産が増えており、今後十分に注意する必要がある。

【参考】 11月の企業倒産 —東京商工リサーチ—

(注) プ  
吹  
産  
額  
分  
以上を占める。

	件数		負債総額 (百万円)	
		前年同月比		前年同月比
全国	1,132	-11.3	694,833	20.6
近畿	295	-13.7	329,142	279.9

1. ロ  
口、穴  
の倒  
で金  
の半

2. 不況型の倒産の構成比率が過去最大の81.9%

## 2. 需要部門別

### (1) 橋梁

- ① 橋梁の発注量は、昨年が約40万t、今年度は20~25万tで限りなく20万tに近づくと言われ、来年度は20万t割れが確実視されている。各ファブは来年度の仕事を確保するために、繰り越せる物は無理して加工せず、先延ばしにしている。
- ② 仕事量が減少しているためにFAB間の競争が激化し、叩き合いになっている。特に合成床版は、橋梁の不足分を確保しようとしているファブや、今まで製作していなかった所が仕事量確保のため参入するなど、安値が横行している。

### (2) 鉄骨

- ① 昨年延期された大型物件のうち、4大物件と言われるアベノ近鉄など一部は動き出しているが、足元の需要は全般的に冷え込んでいる。特にM以下のFABは壊滅的である。
- ② 発注されている大型物件も仕事が無い時だけに価格はかなり厳しく、収益は悪く、仕事をしているだけの様相を呈している。

【参考】 10月の住宅着工面積

		面積 (千㎡)		備考
			前年同月比	
全国	SC	3,226	-34.4	12ヶ月連続で前年同月比マイナス
	SRC	188	-48.8	8ヶ月連続で前年同月比マイナス
	鉄骨需要量	33万t	-15万t	
近畿	非住宅	606	-9.4	8ヶ月連続で前年同月比マイナス

### (3) 建機

- ① 建機メーカーは、上期で在庫調整を終了し、実需見合いの生産と言うことであるが、シャアの操業度は40~50%程度で、一時に比べると増加傾向にあるが、あまり増えたと言う実感はない

### (4) 産機

- ① 近畿の製造業は、大型投資が一巡したこともあり、設備投資は前年度比でマイナス19%となり、産機系シャアの操業度は上がり、30%前後と思われる。

### (5) 造船

- ① 手持工事は、まだ2~3年あるが、今年度の受注が大幅に減少しているので建造はスローダウンし、厚板使用量は減少している。また韓国造船所の手持ち工事も減少して

おり、安値合戦が心配される。

(シーヤリング工場・佐々木泰司)

## 九州

### 相もかわらず・・・

九州地区の厚板シヤアの業況は、依然低位のまま変化なく、回復の兆しなどまったく感じられない中、相も変わらず激しい受注競争を繰り広げ、底値など見えない奈落の状況に陥っている。

これは、九州の直近の切板溶断量が、16,000t/月程度と推測され、昨年より10,000t/月(△40%)少なく、回復の見込みたたないことが、最大の原因ではあるが、我々のとった結果は、それによりパイ(溶断量)が増えるわけでもないのに、ただただ買い手のいいなりに値下げを繰り返し、ただただ赤字を垂れ流す『集団』と化し、業界新聞にも『九州震源の切板安値。母材より安し。』と揶揄されてしまった。

体力の差こそあれどの会社も、この行き着く先がどうなるのかは、自明の理である。我々は、この続くであろう60%環境に耐えうる『自社改革』を行い、『無意味な不毛競争』から抜け出さなければならない。

**【建 築】** 足下、前クオーターまでは、まだ継続案件もあったが、それも消化され、すべてのシヤアで仕事量が確保できない状況になってきた。

建築着工統計推移も悲観的で、非住宅着工床面積は、平成21年度1Q(4～6月)38万㎡が、2Qは、40万㎡に若干増えたが前年同比では△39%と悪化した。

S+SRC造の着工面積比でも、同比△45%減であり、鋼材使用量も全体で3万t/月(△44%)と同様の落ちで、まったく改善の兆しは見えない。

建築確認件数も低調まま変化ないことから、当分の間はこの60%環境と判断せざるをえない。

確定案件： 熊本駅前再開発(S2千トン)ハーミツビル(S5千トン)

福岡赤十字病院(S4千トン) BS久留米(S2.4千トン)

那覇おもろまち一丁目土地利用事業(S6千トン)

計画案件： 鹿児島中央駅11番街区(S3千トン)

熊本合同庁舎(S4千トン)渡辺通2丁目再整備(S4千トン)小倉駅南口再開発(S4千トン)

〔橋 梁〕 九州の橋梁ファブの受注状況は、連敗がつづき、目新しい新規案件がない。前政権下での最後のピークである9月の開札結果がこれでは、先々暗雲が立ち込める状況。

〔自動車〕 九州の自動車生産は、下期に入り3社とも前期比大幅に改善をしめた。

特にエコカー減税効果でトヨタ九州の回復は顕著であった。09年通期でも輸出中心の日産除き08年を上回る生産実績になる見込み。エコ減税も継続されることから当面は好調に推移すると思われる。

	上期	前年比	3Q	前年比	4Q	前年比	下期	前年比	年度計	前年比
トヨタ自動車九州	153.5	-17.1%	93.7		86.0		179.7	68.0%	333.2	14.0%
日産自動車/九州	131.0	-45.0%	84.7		82.8		167.5	36.9%	298.5	-17.0%
ダイハツ九脚	144.7	-2.3%	93.8		106.4		200.2	23.1%	344.9	11.0%
	429.2	-24.8%	272.2		275.2		547.4	39.7%	976.6	1.4%

〔造船〕 九州地区の平成21年度2Q(7～9月)建造量(竣工ペース)は約1,300千総トンと推定されほぼ前期比横ばいと推測される。ただ新規受注は殆どないため契約残を食いつぶしている。

各造船所は、ピッチダウンしており手持ち残で回復を待つ姿勢のままの状況。

＊ 結 語 平成21年度2Q(7～9月)の鉱工業生産指数は、前期比11%UPの92.1(2005年=100)と2期連続プラスとなり2005年水準に近づきつつある。

Qに続き牽引したのは自動車関連と電子部品・デバイス分野であり、厚板に関連する指数は、非住宅着工床面積前年同期比△39%と4期連続の大幅減となり、金属製品工業指数も2005年比70%程度を底這っている。ただその他の製造系は、今夏を界に低位ながら持ち直しの方向であることは、若干の希望かもしれない。とは言え厚板溶断では、先へのべた通り、真っ暗なトンネルの中でしかなく、安易な期待などできない。

来春以降、中国発信による資源インフレから、全世界で鋼材の価格が上向きこの下落傾向にSTOPがかかれれば需要面の期待が出来ない斯く状況を我々九州は認識し、自助努力による大幅コストダウンと不毛な競争回避により来る時まで生き延びねばならないと思う。

(豊鋼材工業・嶋津邦夫)

### Ⅲ 高木理事長の感想

各地区の報告をお聞きして、シャアの業況が日増しに悪化していることが改めて認識できた。昨年秋のリーマンショックの影響により、東海地区が一番最初にダメージを受け、今は全体が不況一色に染まっている。九州を中心に市況が乱れ、最悪の事態が全国的に拡大している。シャア需要の大半を占める建設や建産機は、民間設備投資の比重が高いので、設備投資サイクルが動かないと需要はなかなか生まれてこない。来年の需要は今年の横ばいならば良いほうで、更に底割れして、2番底、3番底の到来もありうる。こうした状況だからこそ、各社、『身の丈経営』に徹し、受信・与信に目を配りながら、トータルの資金事情がどうなっているか、きちんと注視していく必要がある。皆の力で身の回りをしっかりただしていきましょう。

(富士鉄鋼センター社長)

(参考) ≡ 出席者 ≡ (順不同敬称略)

酒 匂 委 員 長  
高 木 理 事 長 (ゲスト)  
吉 里 総務委員長(ゲスト)  
東 北 庄 子 (J F E 鋼 材)  
東 京 秦 (丸 東 興 業)  
池 田 (ニューエイジ)  
井 沢 (富士鉄鋼センター)  
角 田 (三ノ橋鋼材)  
東 海 林 (三和鉄鋼)  
加 藤 (中 部 鋼 鋳)  
鈴 木 (鈴 将 鋼 材)  
佐 野 (丸八鋼材)  
鬼 頭 (鬼頭鋼材)  
堀 場 (三和鉄鋼)  
大 阪 佐々木 (シーヤリング工場)  
九 州 嶋 津 (豊 鋼 材 工 業)  
事務局 柘 野

#### IV. 次回の開催日時・場所

第144回市場委員会

平成22年3月12日(金) 正午～

於 東京・鉄鋼会館